

2024年度 高等学院同窓会学術研究奨励金  
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)

高等学院長  
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [ 徳田良信 ]

学年・組・番号 [ 2年 D組 19番 ]

研究課題： 日本の伝統的な文化の広がりとは現在における文化の実態および保護についての研究

(英文) Research on the spread of traditional culture in Japan and the current state of culture and its protection

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200~400字で記入してください)

私は、昨年度に行った民俗学の研究を実施する中で、民俗学的な信仰や伝説が若者を中心とした現代人にとって重要なものではないことと、興味や関心を持たれにくい内容になっているように感じた。このことから、私たちが現在受け継いでいる民俗文化についてより具体的に知りたいと思うようになり、同時に、この民俗文化を保護し、次の世代が継承していくためにはこれら民俗文化についてそれぞれ研究されたものが必要であると考えようになった。

民俗文化は種類も多岐にわたるほか、記録の不十分さから研究が難しいと考えられるため、今回は地区と研究対象を限定し、「川崎市岡上地区」の「せえのかみ信仰」を研究対象とした。この信仰は地域行事とも結びつく身近なものであるが、この信仰を正しく理解することは容易ではない。そこで、この信仰について地域のカルチャー・セミナーや著作物、他地域の類似する信仰の先行研究などを参考に実態の類推を行うことを目指した。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200~400字で記入してください)

「せえのかみ信仰」と同様の信仰とされる道祖神信仰について、先行研究をもとに石造物などの信仰の形態から考えられる傾向について調査した。また、対象地区では庚申信仰との結びつきや妖怪伝説への派生も確認できたため、他地域における類似事項を参考にしたうえで、対象地区における信仰の実態がどういったものであるのか地理的な条件など多角的な視点から考察した。しかしながら、「せえのかみ信仰」についてより具体的な実像を解明するまでには至らず、考えられる複数の系統から妥当性の低いものを排除する程度に留まった。

この研究成果のあいまいさについては、研究の際に閲覧できる資料や調査できる事象などが少なかったことが考えられる。これらの資料を新たに発見することは極めて困難であると予想されるため、結論をより確実なものにするには類推の精度を向上させる、つまりより多くの事例を調査し道祖神信仰の法則性を見出すほかないように考えられる。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 2年D組 徳田良信

研究分担者 2年D組 本間義隆 2年D組 勝田英翔 2年D組 平井利空

担当教諭 松澤徹 先生 (受給額： 26,000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEB ページ上で公開されることに同意します  
(次のページに続きます)

**研究成果写真：**

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



川井田の辻のセエノカミ（撮影：徳田良信、2024年8月20日）



谷戸の辻の石造物（撮影：徳田良信、2024年8月20日）



川井田の辻の石造物（撮影：徳田良信、2024年8月20日）